

## 第4回 NIE「わたしの推し記事」コンクール 高等学校 最優秀賞

鱸 実柚奈 さん(兵庫県立西宮高等学校3年)  
わたしの推しは、「繋ぎたい命」です!

掲載記事:朝日新聞 2026年3月28日付朝刊

見出し:産科偏在 施設外分娩への備え 救急救命士ら介助や新生児の蘇生を訓練

他人に薦めたいほど、どうしてこの記事に魅力を感じるか、この記事が広まれば社会にどんな変化があるかを書いてください(600字以内)

人は本来、適切な医療環境のもとで安心して命を迎えるべきだ。しかし現実には、地域によって出産環境に差がある。安全に出産できる体制が整っていない地域も存在する。この記事は、その現状を具体的に伝えている点に強い関心を持った。少子化が進む日本でも産科が減り偏在化するなかで妊婦とおなかの赤ちゃんを守るための訓練を重ねる救急医療の従事者にとっても必要性を感じている。私の姉は整った環境でさえも生きて生まれてくることが叶わなかった。後に母から姉を失った時の悲しみや苦しみを聞き、おなかの中で育んだ赤ちゃんと生きて会えないことのつらさを知った。車中など施設外分娩になると低体温症や呼吸障害などにつながる可能性もあり命の危険の恐れもある。環境や体制が整っていないという理由から妊婦や赤ちゃんが命を落とすことがないようにしたいと私は強く思う。記事で示されている緊急時の対応の遅れは、特定の地域に限らず起こり得るものである。だからこそ、より良い医療環境を整えていくことが大切だと感じる。この記事は、その課題に気づき、考えるきっかけを与えてくれた。私は助産師を目指している。すべての命が安心して迎えられる社会を支える一員になりたい。その実現に向けて、自分にできることを積み重ねていきたい。